

立花：立花です。2024 年 3 月期第 3 四半期の決算概要について、ご説明いたします。

エグゼクティブサマリー



第3四半期実績

売上高は、過去最高を達成（3,265.2億円 前年同期比：109.3%）

- 米州、中国、APは過去最高を達成
 - EMEAは、ロシア影響や COVID-19検査需要減をカバーし、前年同等を維持
 - 日本も、COVID-19検査需要減をカバーし、前年同等を維持
- ※中国は、腐敗防止運動の影響は軽微であり、現地通貨ベースで2桁伸長

営業利益は、対前年横ばい（542.1億円 前年同期比：99.7%）

- 売上高の伸長や原価率の改善により粗利は増加
- 人的資本強化のための人件費増やデジタル化関連費用の償却開始および円安により、販管費は増加
- その他営業損益の影響※もあり、営業利益は横ばい ※前年度の火災補償金収益（19億円）

売上高・原価率・営業利益ともに、概ね計画とおりに進捗

- 各地域のビジネスは順調に推移
- 米州にて一部、4Qへの期ずれが発生し、それを除いては概ね計画とおりに進捗

4

4 ページをご覧ください。

第 3 四半期累計実績のエグゼクティブサマリーです。

売上高は 3,265 億円で、前年同期比 109.3%とほぼ 2 桁成長となり、過去最高の売上高になりました。特に、米州、中国、AP の 3 地域はいずれも好調で、現地通貨で過去最高を達成しています。EMEA 地域は、COVID-19 検査がなくなったことと、ロシアの影響。日本は COVID-19 検査減少の影響がありましたが、これら 2 地域は前年同等の売上高を確保しました。

中国については、後ほどご説明しますが、外部環境の影響はほぼ出尽くし、当社の対応も進んでいるので、ニューノーマルなステージになり、着実に伸長しています。

営業利益は 542 億円、前年同期比 99.7%。売上高の伸長や原価率の改善により、粗利は増加しましたが、販管費の増加や、その他、営業損益の影響もあり、横ばいとなりました。販管費の増加は、インフレ影響がある中で、当然、各種効率化に取り組む一方、将来のための積極的投資も不可欠で、研究開発や、人的資本およびデジタル化などへの投資を行っているためです。その他営業損

益の影響というのは、前期に火災補償金が19億円という営業利益プラスの特殊要因がありました。これらの結果、営業利益は横ばいとなっています。

ロシア影響は、昨年の第4四半期より発生しており、ネガティブ影響はこの第3四半期までです。COVID-19検査需要減の影響も第4四半期に軽減するため、ネガティブ影響に対するリカバリー効果が第4四半期に、より発揮され、通期では対前年増益になると想定しています。

第2四半期決算発表時に、為替前提、原価率、販管費と研究開発の通期業績予想を修正しましたが、そのときの第3四半期の社内想定に対して、売上高、原価率、営業利益ともに想定に近いところで進捗しています。一部、米州で3Qに売上を予定していたものの、一部が4Q以降に期ずれしましたが、それを除けばおおむね計画どおりです。

これ以降のスライドは、全て対前年比較でご説明いたしますが、各スライドの重要ポイントのご説明に時間を割きたく、記載内容を読み上げることは、最小限にさせていただきますので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

決算総括（対前年）



(億円)	2024年3月期3Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	3,265.2	100%	2,987.4	100%	109.3%
売上原価	1,547.5	47.4%	1,438.7	48.2%	107.6%
販売費及び一般管理費	958.4	29.4%	815.5	27.3%	117.5%
研究開発費	232.1	7.1%	220.6	7.4%	105.2%
その他の営業損益	15.0	0.5%	31.2	1.0%	48.3%
営業利益	542.1	16.6%	543.7	18.2%	99.7%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	344.6	10.6%	351.8	11.8%	98.0%

- **売上高**：海外地域の2桁伸長により、増収を達成、過去最高
- **営業利益**：売上原価改善による粗利増加も、販管費の増加やその他営業損益により、横ばい
 - 為替の影響 売上高 +108.0億円、販管費 +35.9億円、営業利益 +66.6億円
 - 前年同期為替レート適用の場合 売上高 105.7%、販管費 113.1%、営業利益 87.4%
- **四半期利益**：法人税の増加などにより、減益

※為替差損益：+1.9億円（前年同期比+9.6億円）



6ページをご覧ください。

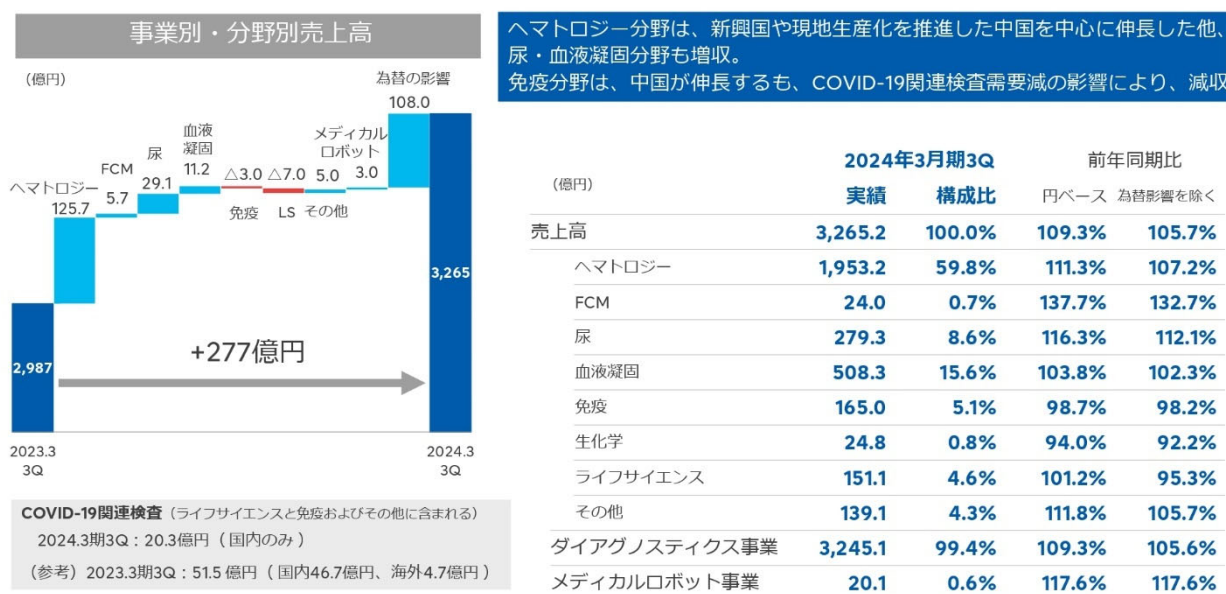
決算総括です。

為替は、右下に記載のとおり円安に推移し、コメントの中段に記載のとおり、売上高、営業利益にプラス影響となりました。

売上高から営業利益までの詳細は、後ろのページでご説明します。

四半期利益は法人税の増加があり、2%の減益です。なお、税率は 32.5%、前年同期と比べて 1.3 ポイントアップでした。

売上高の増減要因（事業別・分野別）



7

次の7ページをご覧ください。

事業別・分野別の売上高です。

ヘマトロジー分野は新興国や中国を中心に伸長しました。尿分野は、新製品 UF-1500 の効果もあり、為替の影響を除いても2桁の伸長。FCMも少し存在感を見せ始めました。そういう中で、血液凝固分野は低い増収率ですが、前年度3Qまであったロシアへの出荷が4Q以降停止したことや、シーメンステリトリーでの低いパフォーマンスが原因です。免疫分野は、中国で伸長しましたが、日本におけるCOVID-19検査需要減により、若干の減収となりました。ライフサイエンスは、日本では肺がんマルチ遺伝子パネル検査の売上が好調に推移し、EMEAではOSNAの販売台数増加がありましたが、日本におけるCOVID-19、PCR検査の需要減により、減収となりました。

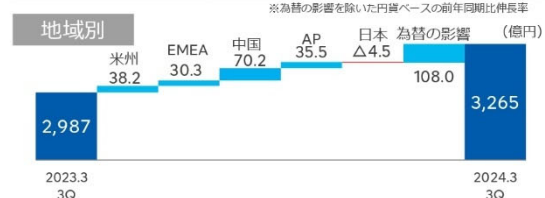
メディカルロボット事業については、後ほど進捗をお話しします。

売上高の増減要因（地域別・品目別）



中国、APが2桁伸長し、グループの成長をけん引

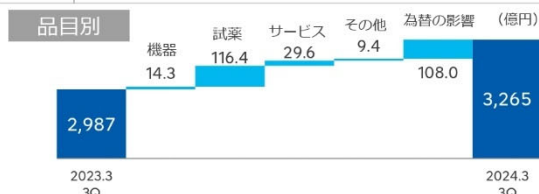
(億円)	2024年3月期3Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	3,265.2	100.0%	109.3%	105.7%※
米州	853.1	26.1%	110.5%	105.4%
EMEA	928.3	28.4%	109.7%	99.3%
中国	734.6	22.5%	111.2%	110.8%
AP	316.0	9.7%	116.8%	113.1%※
日本	433.1	13.3%	99.0%	-
機器	686.6	21.0%	106.6%	102.2%※
試薬	1,997.1	61.2%	109.6%	106.4%※
サービス	447.9	13.7%	112.1%	107.4%※
その他	133.5	4.1%	110.5%	107.8%※



地域別の主な増減要因

※以下のコメントは現地通貨ベースで記載

米州	過去最多の受注を獲得し、ヘマトロジー・尿分野とも好調に推移し、 増収を達成
EMEA	直販化したサウジアラビアやスペインなどの伸長により、特殊要因（ロシア・COVID-19）をカバーし、横ばい。 特殊要因を除くと+5.4%の増収
中国	検査数の回復、現地生産化効果により、ヘマトロジー分野が大幅伸長、また尿・免疫分野における試薬の伸長もあり 2桁増収を達成
AP	各国のビジネスは好調に推移、機器・試薬ともに全分野において伸長し、 2桁増収を達成
日本	ヘマトロジー、尿、血液凝固分野の伸長により機器は好調も、COVID-19関連検査需要の減少を受け、横ばい



次の8ページをご覧ください。

地域別・品目別の売上高増減です。

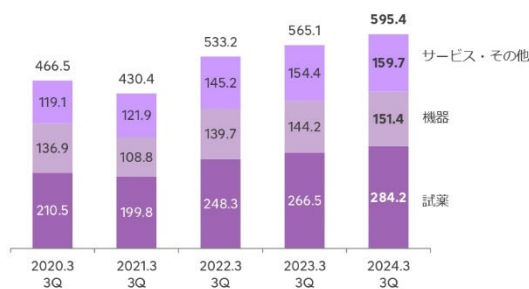
円ベースでの売上高は、ほぼ前年同等となった日本は、COVID 検査需要の減少が要因で、その他の地域は全て増収、品目別も全て増収となりました。現地通貨ベースの売上高を見ていただくと、米州、中国、APの3地域は、いずれも増収で過去最高の3Q累計売上高を実現しています。特に中国とAPは2桁成長を実現しました。EMEAのみほぼ横ばいとなっていますが、ロシアとCOVID-19検査の特殊要因を除けば、5.4%の増収です。

米州（地域別）



(Million USD)	2024年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	595.4	565.1	105.4%	110.5%
機器	151.4	144.2	105.0%	109.9%
試薬	284.2	266.5	106.7%	111.8%
サービス・その他	159.7	154.4	103.5%	108.6%

売上高推移 (Million USD)



出荷・検収遅延などによる4Qへの期ずれがあるも、ヘマトロジー分野や尿分野の伸長などにより、増収期ずれ（11Million USD）を除くと、対前年+7.5%の伸長

● 機器

- ✓ ブラジルおよび米国において、尿分野が伸長。加えて、ヘマトロジー分野がブラジルで伸長し、増収

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー・尿分野において、北米、中南米ともに機器設置台数の増加により、伸長し、増収
- ✓ 大手検査センター（Labcorp）LDT向けの血液中のアミロイドβ検査試薬も、堅調に推移

次の9ページをご覧ください。

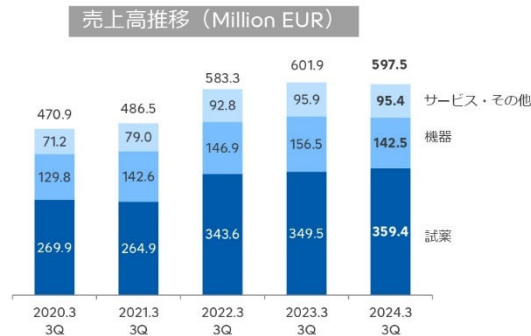
米州の状況です。

冒頭で申し上げた米州での売上の期ずれですが、一部出荷・検収遅れにより、4Q以降に期ずれした分が約11ミリオンドルあります。4Q中にリカバリーすべく、鋭意努力中です。ビジネスのほうは記載のとおり、非常に順調で、Labcorpで行っていただいているアミロイドβ検査試薬も堅調に推移し、3Q累計売上高は1.4億円となりました。

EMEA（地域別）



(Million EUR)	2024年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	597.5	601.9	99.3%	109.7%
機器	142.5	156.5	91.1%	100.6%
試薬	359.4	349.5	102.9%	113.7%
サービス・その他	95.4	95.9	99.5%	109.9%



直販化したサウジアラビアやスペインの伸長などにより、ロシアの大幅減収を補い、横ばいを維持

※特殊要因（ロシア・COVID-19）の影響を除くと現地通貨ベースで+5.4%の伸長。ロシア影響は3Qまでで一巡し、4Qへの影響なし

● 機器

✓ 直販化したサウジアラビアやスペインなどは増収も、前年イタリアで大型案件を獲得した影響もあり、減収

● 試薬

✓ 直販化したサウジアラビアやスペインなどのヘマトロジー分野が伸長し、増収

次の 10 ページをご覧ください。

EMEA の状況です。

ロシアと COVID-19 検査の影響がありましたが、直販化したサウジアラビアやスペインが伸長し、現地通貨ベースで前年同期並みとなりました。特殊要因を除くと 5.4%の増収で、なお、ロシアにおいては、前年度 3Q まで通常ビジネスをしていましたが、4Q からロシアへの輸出禁止品目が強化され、4Q 以降はそれまでの 5 分の 1 程度の売上に低下し、それが今も続いているため、今期 4Q 以降は、各単四半期の対前年比較ではマイナス影響はなくなるということとなります。

中国（地域別）



(Million CNY)	2024年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	3,668.5	3,311.8	110.8%	111.2%
機器	496.7	484.3	102.6%	102.5%
試薬	2,714.2	2,430.8	111.7%	112.2%
サービス・その他	457.5	396.8	115.2%	116.1%



- 検査数回復や現地生産品の拡充により、政府調達方針の影響はあるも、機器・試薬ともに、増収
- 売上高はコロナ禍前の水準まで回復
- 現地生産品3機種の薬事認可を取得

● 機器

- ✓ 現地生産品の拡大を進めたヘマトロジー分野が2桁伸長し、増収
- ✓ 現地生産品導入に向けた販売調整もあり、尿分野がスローダウンしたが、4Qに回復を見込む

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー・尿・免疫分野において2桁伸長し、増収



11

次の11ページをご覧ください。

中国の状況です。

右下に、今期1Qから3Qまでの売上高推移を示しています。中国における当社のビジネスは直販ではなく、代理店への販売ですので、代理店の購入特性により、季節変動があります。1Qと3Qは低め、2Qと4Qは高めという傾向で、今期もその傾向となっています。3Q累計売上高は、現地通貨ベースで前年同期比110.8%の2桁成長、過去最高を実現しました。

中国市場への対応



外部環境のインパクトは概ね出尽くし、機器の現地生産移管も順調に進み「ニューノーマル」な環境下に合わせた施策を推進し、ビジネスを拡大していく

(2024年3月期2Q決算資料より)

緑字：3Q進捗を更新

✓ 機器の現地生産移管推進

(すでに6機種が移管完了、1機種を上市完了、2機種は薬事認可取得完了)

政府調達方針

中国市場の動向

- 高齢化によるヘルスケア需要の増大
- 1人当たり国民医療費が先進国水準へ(現状は、日本の1/7程度)
- 約2,000の2級病院を3級病院へアップグレードすることによる需要増(千県工程)
- 景気減速による経済の停滞(ヘルスケア市場への影響は軽微)

集中購買

- ✓ 直接販売・サービスへのシフト
- ✓ コストダウンした試薬の市場導入
- ✓ 安徽省における免疫試薬の入札を獲得

腐敗防止運動

- ✓ 一部、入札遅延などもあるものの、当社への影響は軽微、引続き注視、3Qにおいては大きな影響はなし
- ✓ 市場環境の健全化は、当社に有利

競合他社の台頭

- ✓ 競争力のあるユニークな製品の開発推進

12

次の12ページをご覧ください。

中国市場の状況を少し補足いたします。

上半期の決算説明時に中国の市場で起きていることと、当社の対応や見解をこのような図でご説明しました。その後、3カ月たち、どのように変化しているのかを緑色の文字で書き加えています。

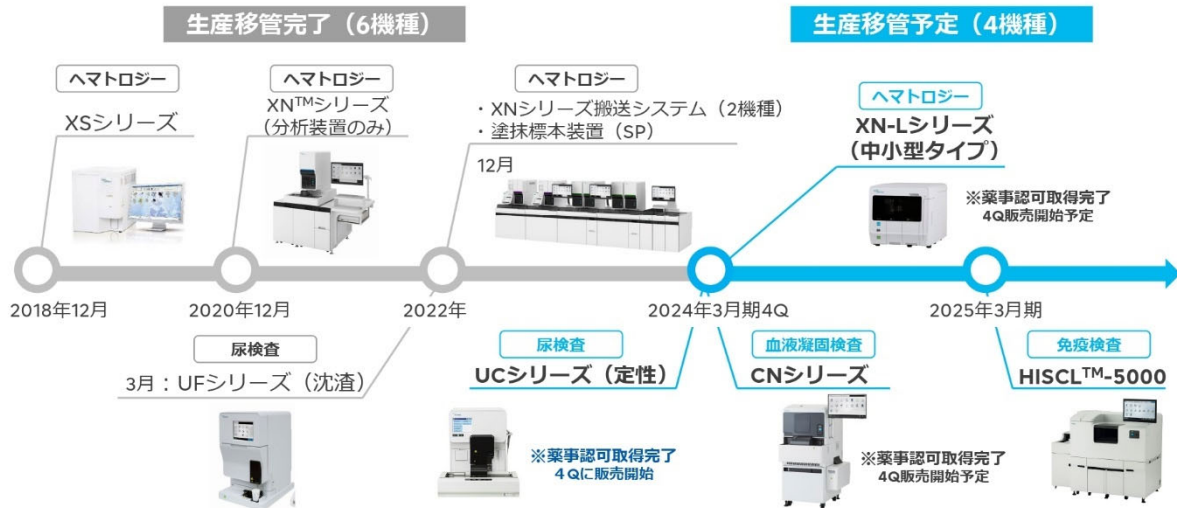
まず、政府調達方針については、ほぼ全ての公立病院の機器入札案件に中国製という条件が付く中、当社は機器の現地生産を進めています。

詳細は次のページ、13ページでご説明しますので、ご覧ください。ページを移っていただければと思います。

中国への生産移管スケジュール



新たに3機種の薬事認可を取得し、今期中の上市に向けて生産を開始



13

これまで、ヘマトロジー分野のハイエンドシステムも含め、6機種の現地生産を行っていますが、この3Qには、新たに3機種の薬事認可の取得を完了しました。そのうち、尿検査のUCシリーズはすでに販売開始し、ヘマトロジー分野の中小型タイプのXNシリーズと血液凝固分野のCNシリーズは、4Q中に販売開始する予定です。

それから、現地生産品ではなく日本製ですが、ヘマトロジー分野の最新機種XRシリーズのスタンダードアローンモデルの薬事認可も1月に取得できましたので、この4Q中に販売開始を予定しています。このように、中国で販売する機器製品の薬事認可取得時期は、当初想定よりも早くなってきており、当社のビジネス拡大にポジティブな状況になってきています。

中国市場への対応



外部環境のインパクトは概ね出尽くし、機器の現地生産移管も順調に進み「ニューノーマル」な環境下に合わせた施策を推進し、ビジネスを拡大していく

(2024年3月期2Q決算資料より)

緑字：3Q進捗を更新

- ✓ 機器の現地生産移管推進
(すでに6機種が移管完了、1機種を上市完了、2機種は薬事認可取得完了)

政府調達方針

中国市場の動向

- 高齢化によるヘルスケア需要の増大
- 1人当たり国民医療費が先進国水準へ(現状は、日本の1/7程度)
- 約2,000の2級病院を3級病院へアップグレードすることによる需要増(千県工程)
- 景気減速による経済の停滞(ヘルスケア市場への影響は軽微)

集中購買

- ✓ 直接販売・サービスへのシフト
- ✓ コストダウンした試薬の市場導入
- ✓ 安徽省における免疫試薬の入札を獲得

腐敗防止運動

- ✓ 一部、入札遅延などもあるものの、当社への影響は軽微、引き続き注視、3Qにおいては大きな影響はなし
- ✓ 市場環境の健全化は、当社に有利

競合他社の台頭

- ✓ 競争力のあるユニークな製品の開発推進

12

もう一度、前のページ、12ページにお戻りください。

次に、腐敗防止運動についてですが、運動そのものは続いており、最近では軍関係者にもメスが入るという報道がありました。しかしながら、当社のビジネスの領域では、3Qに入ってからほとんど影響はありません。

次に、集中購買についてですが、昨年12月に、安徽省を中心に28市町を対象とした免疫試薬の入札が行われました。従来の病院購入価格から約50%引き下げないと落札できないということですが、当社も対象項目全てを落札いたしました。具体的な取引は、4月以降になる模様です。

価格を下げる部分は、基本的には代理店マージンを引き下げることで大部分カバーする考えであります。当然、試薬の原価を下げるという活動も並行して進めます。いずれにいたしましても、過去数年間はコロナ禍やいろいろな政策による逆風が吹いていましたが、当社ビジネスに影響を与える外部環境要因はおおむね出尽くし、当社の機器現地生産も順調に進んでいますので、ニューノーマルなステージに入ったと考えています。

AP（地域別）



(億円)	2024年3月期 3Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	316.0	270.6	116.8% (113.1%)
機器	71.9	59.4	121.0%
試薬	210.0	188.4	111.4%
サービス・その他	34.1	22.7	150.0%

引き続き、医療インフラ投資の需要は高く、機器設置台数の増加もあり、全分野において2桁増収を達成



● 機器

✓ ヘマトロジー分野が各地域で好調に推移した他、尿・血液凝固分野はタイやインド、免疫分野はインドネシアや韓国などで大幅伸長し、2桁増収

● 試薬

✓ 機器設置台数の増加に伴い、インドやオーストラリア、韓国を中心にヘマトロジー分野が好調に推移
✓ 免疫分野が好調に推移するなど、全分野において伸長し、2桁増収

14

2 ページ進んでいただいて、14 ページをご覧ください。

AP の状況です。

国別に見ても、分野別に見ても非常に好調で、コロナ禍が始まった 2021 年 3 月期を底に、2 桁伸長率の高成長が続いています。

日本（地域別）



(億円)	2024年3月期 3Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	433.1	437.6	99.0% (105.6%)
ダイアグノスティクス事業	413.0	420.5	98.2% (105.1%)
機器	65.1	57.3	113.6%
試薬	277.7	293.9	94.5% (104.1%)
サービス・その他	70.1	69.1	101.4%
メディカルロボット事業	20.1	17.0	117.6%

XR™シリーズや血液凝固分野のCNシリーズが好調に推移し、機器は2桁増収も、COVID-19関連検査需要の減少により、減収

ダイアグノスティクス事業

● 機器

✓ ヘマトロジー分野のXRシリーズや、血液凝固分野のCNシリーズが好調に推移、加えて尿分野の中小規模施設向け新製品導入効果もあり、2桁増収

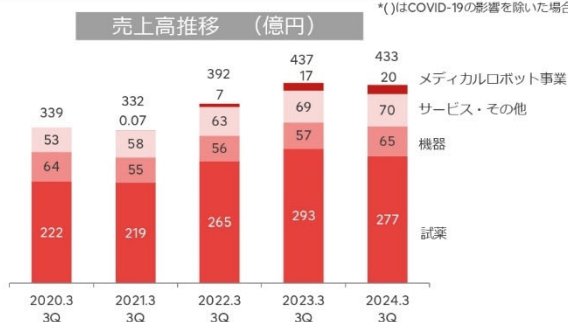
● 試薬

✓ 血液凝固分野における血栓項目の採用拡大も、COVID-19関連検査需要の減少（△26.4億円）などにより、減収

メディカルロボット事業

- ✓ 第3四半期に5台導入（今期累計：9台※）
- ✓ 販売開始以来の累計台数は44台
- ✓ 累積手術数は3,314症例（2023年12月末時点）

※販売スキームにより、売上計上の額や時期および期間が様々であり、導入台数と売上高は比例いたしません。



15

次の 15 ページをご覧ください。

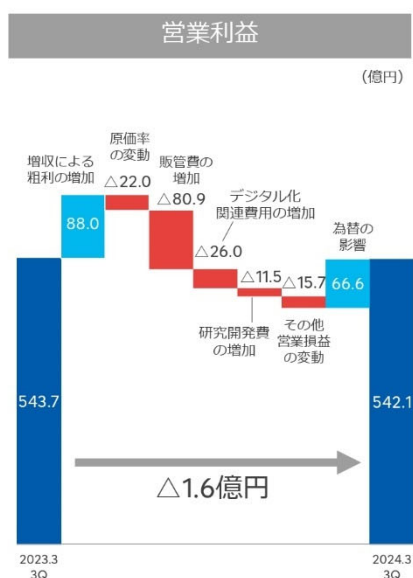
日本の状況です。

COVID-19 検査減少の影響がありましたが、ヘマトロジー分野の XR シリーズや血液凝固分野および尿分野が好調です。メディカルロボットはバージョンアップモデルが好評で、第 3 四半期に 5 台導入し、累積手術数は 3,314 件と増加し、売上高は 20.1 億円でした。市場からの引き合いも非常に増加しています。

営業利益の増減要因



※下記数値・コメントは為替の影響を除く



- 増収による粗利の増加：+88.0億円
- 原価率変動による影響：△22.0億円（0.7pt 悪化）
 - ✓ 改善要因：輸送費高騰の緩和 0.3pt
 - ✓ 悪化要因：サービスコスト 0.6pt、製品等の原価悪化 0.4pt
- 販売管理費の増加：△80.9億円
 - ✓ 労務費：直販に伴う人員増加やインフレ影響による増加：約60億円
 - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：約20億円
- デジタル関連費用の増加：△26.0億円
- 研究開発費の増加：△11.5億円
 - ✓ 製品開発への継続投資および薬事関連費用による増加
- その他営業損益の変動：△15.7億円
 - ✓ 前年の火災補償金による変動
- 為替の影響：+66.6億円

16

次の 16 ページをご覧ください。

営業利益の増減要因です。

為替の影響は、一番下に記載のとおり 66.6 億円のプラス影響がありました。その上に記載のコメントは、為替の影響を除くもので、プラス・マイナスの主な要因は記載のとおりですが、一部補足いたします。

原価率は、前年同期に対して 0.7 ポイントの悪化でした。分解すると、前年に高騰した輸送費が緩和して、0.3 ポイント改善。一方、サービスコストは主に欧米の人件費高騰やインフレで高止まりして、0.6 ポイント悪化。プロダクトミックスは、製品の一部原材料価格アップにより、0.4 ポイ

ント悪化しました。販売管理費のうち、労務費の増加が約 60 億円と大きいですが、約半分が人員増によるものであり、残り半分は人件費アップによるものです。

人件費アップは、人的資本への投資強化ということで、日本では今期約 5%の賃上げを実施しましたし、海外では約 10%程度のアップと推計しています。事業拡大や直販国拡大、機能強化などに伴う人員増強に加え、人材のリテンションだけではなく、付加価値、生産性向上のためにも、中長期目線で人的資本への投資をしています。

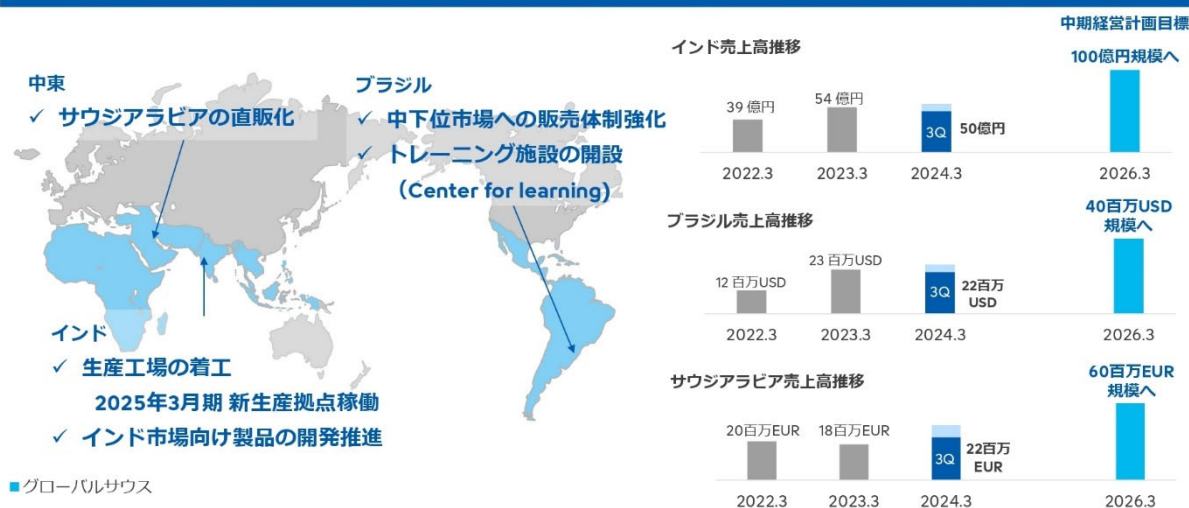
デジタル関連費用は、当社グループ全体の IT システムの強化を 5 年前から取り組んでいる大型プロジェクトで、今期から来期にかけて、大きなところは完了します。研究開発費も、将来に向けた取り組みとして重要であり、中長期目線で継続的に投資をしています。

次に、今後の成長に向けた取り組みの進捗をご説明いたします。

新興国戦略



インド・ブラジルおよびサウジアラビアを中心に大幅伸長し、3Q時点で前年同等以上の実績
経済・医療品質の向上により、大幅な市場成長が見込まれる地域へ積極投資し、機会獲得



18

次の 18 ページをご覧ください。

新興国戦略についてです。

インド、ブラジル、サウジアラビアにおいては、直販化や販売体制強化により、急速に売上が伸長しており、中長期的に大きな成長を期待しています。インドの新生産工場の建設や、インド向け製

品開発の取り組みも順調に進んでおります。また、ブラジルのトレーニングセンターなど、各国地域の状況に合わせて推進しています。新興国は、中長期の成長ポテンシャルは非常に大きく、戦略的に取り組んでいきます。

既存事業の強化（免疫・血液凝固・ライフサイエンス）



免疫分野

既存アセットの活用・新たなアライアンスによりグローバル展開を急加速

- ✓ 米国において、血液中アミロイドβ検査試薬（LDT向け）の販売が好調、大手検査センター（Labcorp）と連携して推進
- ✓ 富士レビオHD株式会社との業務提携基本契約締結による新規検査項目の開発加速、グローバル展開

血液凝固分野

圧倒的なグローバルシェアNo.1を目指す

- ✓ シーメンス社とのグローバルOEM契約による米国・欧州での販売開始（2025年3月期）

ライフサイエンス

事業のピボット

● 短期的：収益性の向上

- ✓ OSNA™
- ✓ FISH（Oxford Gene Technology）
- ✓ PCR（がん、感染症等）

安定収益源であるビジネスのグローバル展開

● 中長期的：収益化

- ✓ リキッドバイオプシー
（Sysmex Inostics, Inc.）

選択と集中

- ✓ ラボアッセイ事業から検査キットビジネスへ
- ✓ BEAMing からPSS（Plasma-Safe-SeqS）へ

抜本的な検査コスト低減

- ✓ シーケンス

- ✓ 株式会社日立ハイテクとの協業などによる新たな遺伝子検査システムの開発

19

次の 19 ページをご覧ください。

既存事業の強化についてです。

免疫分野は、米国でのアミロイドβ検査に加え、欧州でもこの1月から販売を開始しています。また、さらなる免疫検査項目拡充のための富士レビオとの提携などにより、グローバル展開を加速していきます。

血液凝固分野においては、2023年2月に締結したシーメンスとのOEM契約に基づき、いよいよ今年4月1日から、欧米の直販を開始する予定です。準備は順調に進んでおり、当社、欧米のメンバーも非常にモチベーションが上がっています。

上半期の決算説明の中で、事業のピボッティングの方針を出していますが、具体的な点、検討を進めているのは、ライフサイエンス分野です。この分野の中には、すでに安定した収益源になっているものと、そうでないものが混在しています。

前者は、短期的に収益性をさらに向上すべく、ビジネスのグローバル展開を進めていきます。後者は選択と集中をする部分と、アライアンス等によるコスト削減を行うものがあり、本中計期間中に収益源に変えていく考えです。今期業績へのインパクトは数億円規模と想定しておりますが、来期は効果が大きくなる予定です。将来の大きな収益源になるように取り組んでまいります。

新規事業の拡大



再生細胞医療

- **2023年12月株式会社メガカリオンを連結子会社化**
 - ✓ iPS細胞由来血小板製剤の事業化を加速
 - ✓ 検査機器の精度管理に用いる標準物質の原材料への応用
- **ヘマトロジー分野で培った分析技術を活かして、ヒトiPS細胞由来血小板製剤を実用化し、血小板輸血時のリスク低減に貢献**
 - ✓ アレルギー反応などの副作用低減
 - ✓ 血小板輸血不応症※の発症低減

※繰り返し輸血を受けると、抗体が作られ輸血の効果が得られなくなる症状

安全な医療の実現、患者さんのQOL向上

メディカルロボット事業

- ✓ 2023年7月にバージョンアップモデルを販売開始
- ✓ 累積手術数：2024年3月期3Q時点で3,000件を超え、順調に推移
- ✓ 累計導入台数：44台（今期9台増）
- ✓ 認定医師数：570名（今期283名増）
- ✓ **2023年11月に呼吸器外科への適応申請を実施**
- ✓ 2023年9月にシンガポールの Health Sciences Authority（健康科学庁）より**販売承認を取得**



20

次の20ページをご覧ください。

新規事業の拡大についてです。

再生細胞医療については、12月に発表させていただいたメガカリオンの子会社化によるiPS細胞由来の血小板製剤の事業化に向けた取り組みが新しい案件です。メディカルロボット事業については、手術数が順調に増加していますし、適応拡大やシンガポールへの展開も進めていきます。

次のページ、最後に、通期業績予想についてです。

通期目標達成に向けた取り組み



(2024年3月期2Q決算資料より、更新)

- **売上高の伸長**
 - ✓ 日本、EMEA、APIにおけるXRシリーズおよび中国、米州におけるXNシリーズとBT-50の拡販
 - ✓ 中国の現地生産品の拡販（ヘマトロジー分野の上位、中下位機種、尿分野の定性分析装置、血液凝固分野）および免疫分野における新規試験項目の拡販
 - ✓ シーメンス社向け機器販売の増加（グローバルOEM契約に基づく供給開始）
- **原価率低減**
 - ✓ 原材料を自社化した試薬の拡販
 - ✓ 一部地域、品目における価格転嫁
 - ✓ 半導体など高騰していた資材の価格低下
- **事業・研究開発の再整理による販管費の効率化**
 - ✓ 優先順位付けの見直し
 - ✓ 効率的な資源配分によるコスト低減

22

次の22ページをご覧ください。

上期の決算説明会でお話した、下期の取り組みについて、しっかり取り組んでまいります。

2024年3月期 通期業績予想



2023年11月に修正した通期業績予想から変更なし

(億円)	2024年3月期 3Q (4月-12月)		2024年3月期 通期 (4月-3月)		
	実績	構成比	修正公表	構成比	対前年
売上高	3,265	100.0%	4,600	100.0%	112.1%
売上原価	1,547	47.4%	2,175	47.3%	111.9%
販売費及び 一般管理費	958	29.4%	1,255	27.3%	111.7%
研究開発費	232	7.1%	345	7.5%	111.1%
その他営業損益	15	0.5%	5	0.1%	48.6%
営業利益	542	16.6%	830	18.0%	112.7%

投資計画	設備投資 478億円	減価償却費 350 億円
------	------------	--------------

● 想定為替レート

	通期 (2023年5月公表)	通期 (2023年11月修正)	下期 (2023年11月修正)	前期実績 (23年3月期)
1 USD	133.0円	143.0円	145.0円	135.5円
1 EUR	143.0円	154.2円	155.0円	141.0円
1 CNY	19.2円	19.9円	20.0円	19.8円

● 為替感応度の概算値（年間）

	売上	営業利益
USD	7.9億円	1.8億円
EUR	5.8億円	1.4億円
CNY	54.6億円	41.8億円

23

次の23ページをご覧ください。

11月に修正させていただきましたが、そこからの変更はありません。不確実性はいろいろありますが、販管費等を適切にコントロールし、通期業績達成を目指します。

予想配当額



● 期初予想から配当額は変更なし

	中間	期末	年間	配当性向
2023年3月期	40円	42円	82円	37.5%
2024年3月期 (案)	42円	42円	84円	33.8%

当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

24

次の24ページをご覧ください。

予想配当額についても変更ありません。

株式分割について



目的

投資単位当たりの金額の引き下げおよび株式の流動性向上により、より投資しやすい環境を整え、企業価値向上を実現する

分割の方法

2024年3月31日（日）を基準日として、普通株式1株につき、3株の割合をもって分割
* 基準日である2024年3月31日（日）は休日のため、実質的には2024年3月29日（金）

分割の日程

- 基準日公告日 2024年3月15日（金）
- 基準日 2024年3月31日（日）
- 効力発生日 2024年4月1日（月）

期末配当

2024年3月31日を基準日とする2024年3月期の期末配当は、株式分割前の株式を対象に実施
* 1株当たりの期末配当金は42円を予定（2023年5月11日公表から変更なし）

25

次の 25 ページをご覧ください。

本日公表させていただきましたが、2024 年 4 月 1 日に株式分割を行います。投資単位当たりの金額の引き下げおよび株式の流動性を高め、より投資しやすい環境を整えるために、1 株を 3 株に分割いたします。

以上で、ご説明を終わります。

以上